

埼玉アートシアター通信

NO.

38

S A I T A M A A R T S T H E A T E R P R E S S

2012.3-4月号

歌手

演出家・彩の国さいたま芸術劇場芸術監督

[NINAGAWA 千の目] ^{まなよし}こまどり姉妹 × 蜷川幸雄

日仏ダンスの競演 システムカスタフィオール & Nosim1 / ピアノ・エトワール・シリーズ2012



CYMBELINE



シェイクスピア作品だけにつけられている「ロマンス劇」というジャンル。悲劇でも喜劇でも、歴史劇でもない「ロマンス劇」。本来は「ロマの」^マという意味だが、いまはほんのり甘い香りを漂わせるニュアンスで使われることが多い。波瀾万丈、荒唐無稽、芝居ならではの飛躍と奇跡が満載の「シンペリン」で、とくとその意味をかみしめてみてはどうだろう。

INDEX

- TALK** 蜷川幸雄公開対談シリーズ NINAGAWA千の目 第24回
こまどり姉妹×蜷川幸雄 03
- PLAY** 『シンペリン』×『海辺のカフカ』×『しみじみ日本・乃木大将』
蜷川幸雄 インタビュー 06
- REPORT** 『2012年・蒼白の少年少女たちによる「ハムレット」』
稽古場見学会レポート 09
- PLAY** 彩の国シェイクスピア・シリーズ第26弾
『トロイラスとクレシダ』 10
- DANCE** システム カスタフィオール『スタンド・アローン・ゾーン』
Noism1 新作公演
『Nameless Voice ~水の庭、砂の家』 12
- MUSIC** レ・ヴァン・フランセ 14
- MUSIC** 2012-2013 ピアノ・エトワール・シリーズ
Vol.18 エフゲニ・ボジャノフ／Vol.19 ヤン・リシエツキ／
Vol.20 河村尚子
ピアノ・エトワール・シリーズ アンコール! Vol.1 ラファウ・ブレハッチ 16
- REVIEW** 2011.12-2012.2 彩の国のアーツ 19

EVENT CALENDAR & TICKET INFORMATION 20
THEATER BRIDGE 23

表紙：彩の国シェイクスピア・シリーズ第25弾『シンペリン』 編集：(公財)埼玉県芸術文化振興財団、佐藤 優 デザイン：Yellownotes inc.
©(公財)埼玉県芸術文化振興財団 Published on 15. MARCH 2012 All Rights Reserved by Saitama Arts Foundation
※掲載情報は、2012年2月20日現在のものです。公演は追加および一部変更される場合がありますので、ご了承ください。



親子二代にわたってファンだという、こまどり姉妹のお二人の前に、いつもの蜷川節はどこへやら、頬はゆるみっぱなしで、すっかりミスターハート気分の蜷川幸雄。明るく話す苦勞話にお客様の涙腺もゆるんで、会場は共感と感動につつまれました。

TALK

公開対談シリーズ第24回
NINAGAWA 千の目

歌手

演出家・彩の国さいたま芸術劇場芸術監督

こまどり姉妹 × 蜷川幸雄

Photo: 細野晋司

蜷川(以降N) 僕がどれほど感動しているか。父親も僕もファンで、今日はじっくりお話を聞きたいと思います。こまどり姉妹さんです、どうぞ。(拍手)どちらがお姉さんで、どちらが妹さんですか。
栄子(以降E) 私の方が、早く生まれて姉にされた栄子です。
敏子(以降T) 妹の敏子です。どうぞよろしくお願いたします。
N 今朝は何時に起きましたか。

E 私は4時半に起きて、お風呂に入ってからもう今は疲れております(笑)。
T この年になりますと、若い頃のように水分がすっきり取れないんです。やっとなまっげがついたという感じで(笑)。
N お2人の映画(『こまどり姉妹がやって来る ヤァ!ヤァ!ヤァ!』)をご覧になった方、手を挙げてくださいますか。
E あら、大分いらっしゃるのね。嬉しい

わね。
N 僕も拝見して感動しました。すごい経験をされていて、色んなことが歌にも反映されているんですね。『涙のラーメン』という歌がありますが、初めは何てシュールな歌なんだろうと思っていました。
T ナルトにシナチク、チャーシューですものね。
N 映画を観てわかりましたが、ラーメンが憧れの食べ物だったんですね。



こまどり姉妹(姉 長内栄子・妹 長内敏子) 1938年北海道釧路生まれ。51年、13歳で上京し、浅草を中心に流しの歌手として活動を始める。59年『浅草姉妹』でレコードデビュー。61年から7年連続してNHK紅白歌合戦に出場。『三味線渡り鳥』『石狩川』等のヒット曲を出すなど、スターこまどり姉妹の名を不動のものとするが、73年に妹・敏子の癌治療のため、一時活動休止。84年より活動再開。その後は現在まで、全国各地を飛び回り、ファンを魅了している。09年にはドキュメンタリー映画『こまどり姉妹がやって来る ヤァ! ヤァ! ヤァ!』が公開。08年、第50回日本レコード大賞功労賞受賞。

E そうなの。あの頃はラーメンが最高のご馳走だったんです。流しの時はお金がないから食べられなくて、流しのお兄さんたちがおごってくれてね。

T 夜中に仕事が終わって、寒さも一段厳しい中で食べるので、なおさら美味しくて。

N 流しのスタートはお幾つでしたか。

E 11歳です。当時、お米は配給制でしたが、お母さんは担ぎ屋といって、お百姓さんから隠れてお米を買って売って歩いていました。だからいつもお巡りさんに捕まっていたね。そして、借金を背負って夜逃げをしたんです。私は温泉かどこかに連れて行ってくれるものだと思って、喜んでお母さんと最終の汽車に乗りました。私たちの町にも門付けの芸人がいてお金を貰うのを見ていたのでしょう。お母さんは太鼓を叩きながら民謡を歌い始めたんです。

T でも、何十軒何百軒まわっても誰も聞いてくれないの。ある家のおかみさんが、「後ろの双子の女の子が歌えばお金をあげると」と言って、母は「この子たちは歌えませ

で流しをさせてもらってね。だけど親分さんがいるものですから、1日のあがりを全部渡して、明日のお米代と宿賃だけをもらうという生活でした。それで、私たちは東京に行こうと決心したんです。

N そして山谷(東京都台東区・荒川区にある寄せ場の通称)にいらしたと。

E 毎日夜中の3時4時まで働きずくめでした。でも、親の喜ぶ顔を見られたらいいと思ってね。終戦から4、5年の頃で、あの頃の子供たちはみんな靴を磨いたり、花を売って歩いて、親のために働いていました。

T 私たちの芸はお客さんに仕込まれたようなもので、ずるいお客さんは10曲も20曲も歌わせて、最後に「新内節の『蘭蝶』をやれ」なんて難しい曲を注文するんです。

N 新内なんかもやらされるのですか。

T まだ三味線も持ってない時で、「歌えないならお金は払わない」と言って追い出すの。そして、浅草の演歌師の人は私たちに、浅草で流しをさせない、だけど三味線を持

つならと言うわけ。人様の前で弾くには3年かかるという楽器ですから、タカをくくっていたのね。でも、お母さんが月賦で三味線2挺借りてきて、先生を探して端唄の『夕暮れ』を仕込んでもらって、100曲弾けるような顔をして、1週間後に町に出て行ききました。生きるために真剣でしたよ。

N ひばりさんもそうでしたが、あの頃は子どものスターが多かったですね。

T みんなマネージャーになって一儲けできると思って、私たちもよくレコード会社に連れて行ってくれたんですよ。

E でも、流しは軽蔑されていたでしょう。一番最低の仕事なので、「流しじゃだめ」とすぐ帰されちゃって。でも、コロンビアの社長さんは妹の声を聞いて、妹を歌手にしようと思ったのね。

T テストに呼ばれて、2人でいったんですけど、ディレクターさんは「誰かにその辺で聞いてもらいなさいよ」と素っ気ない感じでね。そうしたら奥の小さなレッスン室からピアノが聞こえてきて、『十代の恋よ さようなら』で大ヒットしている神戸一郎さんと遠藤 実先生がいらして、私たちはそっと入って後ろの椅子に2人でちょこんと座ったの。流しとかをやってきて人馴れしていたのね、普通なら入れませんよ。

N そうですね。

T 後ろを向いたら、あか抜けないしよっぱい格好の私たちがいるものから、先生は「君たち何でそこにいるの」と言ってね。「誰かに聞いてもらうように言われました」と言うと、「じゃあ歌ってごらん」と言って



くださったんで、『裏町人生』とかひばりさんの歌を歌いました。演歌師をしてきた人の歌い方は特別で、それに昼間はちょっと声が枯れているんです。先生も演歌師をやっていたので、なお心にずっと沁みたのでしょう。「実はこうこうで、流しをしていました」と話すと感動してくださって。先生はまだ他のレコード会社の専属で、コロンビアでは名前を変えて曲を書いて、島倉千代子さんの『からたち日記』が大ヒットしていた時でした。先生は元の会社に戻ろうかどうか迷って、熱海が伊東に雲隠れしたの。私たちが先生に会えなくて歌手を諦めていた時、先生は「僕がコロンビアに行かないとあの2人はデビューできないだろう」と思って、箸袋の裏に「お姉さんのつまびく 三味線に唄ってあわせて 今日ゆく」と書いて「よし、行こう」と決心してくださって。本当に嬉しかったわね。

台本を読んだら、いつまでたっても私たちの出番がない……!?

N お2人は声質も違えば性格も違いますよね。よく喧嘩はされましたか。

T 喧嘩というより、仕事に関して、今日はどういう着物を着るとか、どういう話をするとかね。

E まあディスカッションですね。

T 姉妹というよりも仕事の相棒なんです。仲良く生きていくためには、相手の城に絶対に入らないことが条件です。

E ギャラでも何でも半分こするんです。

その使い方は全く知りませんし、お財布の中を見たことも、幾ら貯めているのかも聞いたことないしね(笑)。相手の個性は自分とは違うけれど、まあいいかと納得してずっとやってきました。

T それぞれの人格を育てていこうと思ったのが山谷時代でした。

E 13歳の頃です。浅草の町を60歳ぐらいの双子のおばさんが同じ洋服を着て手つないで歩いていたの。あんな年で同じものを着て、手をつないで、自分の人生も相手の人生もなく、ああやって歩いているのは自分にとって何だろうかと、双子に生まれてこれでいいのかと。その時にピンときまして、妹に「もう同じのを着るのはやめようよ。個性を出して、私が海辺を歩いたら、あなたは山の道を歩いて、それぞれの道を体験してお互いにそういう話をしましょうよ。同じ道を歩いたら何の意味もないでしょう」と言ったら、妹も納得してくれてね。

T だから便利なんですよ。1人ずつ別なことを体験していますので、本でも何でも健康にいいものなんてあると、「これをもう1つ買ってあなたにあげるから」なんてね(笑)。

N 僕は1969年から演出家をしていて、ずっとお2人に出演していただきたいと思っていました。僕らの芝居はお2人の歌に匹敵するものなのか、それを1つの目安にして仕事をしてきたところがあります。今度、僕たちの『ハムレット』という芝居に出ただけなので、うわぁと物凄く喜びました。自分の演出史上最大の事件です。

E 初めてこの話を聞いた時はびっくりし

ました。でも、本当に感動しております。

T 「お芝居ですか？」とマネージャーに聞きましたら、「いや、歌1曲だけらしいよ」なんて言われて、「歌だけなら是非お願いします」と言って。台本をいただいて、最後まで読んで私たちの出る場面が全然なくて、あら、どこに出るのかしらという感じでした(笑)。でも、それがまた興味があって、どこで出してくださるのか楽しみです。

N 出来の悪い若者を見たら蹴飛ばしてください(笑)。せっかくなので、みなさんから質問を……

観客A 両親の喜ぶ顔が見たいというその気持ちに本当に共感しています。私は今17歳で、愛知から東京に来て、下宿をして学校に通っています。両親が東京まで送り出してくれたので、どんなに悔しいことがあっても勉強だけはやめてはいけなと思っています。今こまどり姉妹のお2人がこれだけのことをされるエネルギーは、一体何のためにあるのでしょうか。

E 7歳で終戦を迎え、本当に厳しい時代でした。死ぬ思いを何十回、何百回もして、親は私たちを育てるために苦しみ痩せてしまっ。今にも死にそうな感じでしたので、親には何にも要求できませんでした。

T 学校に入っても、鉛筆1本なくてね。同情してくれる同級生が、「これに絵を描きなよ」とくれた画用紙1枚を大事に大事にして、借りたクレヨンで一生懸命描いた絵が、展覧会で金、銀をとったの。昔は「恩義を返す」という言葉がありました。自分を支えてくれた人に対して10倍でも100倍でも喜んでもらいたい、そういう人たちのために頑張ろうという思いですね。

E 人を憎まず、幾らいじめられても負けないで、自分は別の方からまた芽を出して、将来に向かって力をつけるという気持ちが大事です。くじけしないで努力してね。

観客A ありがとうございます。(拍手)

E 今日はこうして皆さんとお会いしてお話をさせていただいて、もう嬉しくて。涙がずっと止まらなくてしょうがないの。

T 顔も何もかも涙でぐしゃぐしゃで、つまつげが取れそうです。本当に申し訳ございません。

N 今日はお忙しいところ本当にありがとうございました。(拍手)

INTERVIEW

蜷川幸雄 2012・春夏コレクション

そろそろスピードダウンしてもいい頃ではないか、などという外野の声はどこ吹く風、今年も全力疾走中の蜷川幸雄芸術監督。4月から7月にかけては、シェイクスピア『シンペリン』、村上春樹『海辺のカフカ』、井上ひさし『しみじみ日本・乃木大将』と、演出作品が目白押しだ。蜷川版「2012・春夏コレクション」の展望を聞いた。

取材・文：市川安紀 Photo：宮川舞子



『シンペリン』

日本人俳優の実力を証明したい

— シェイクスピア・シリーズでは『テンペスト』『ペリクリーズ』『冬物語』に続いて最後に残されたロマンス劇です。日本ではあまりなじみがない作品ですが。

これまでロンドンでのイギリス人による上演でも、あまり成功した例がないらしいですね。傑作の生まれでない作品をニナガワにやってみてほしい、という「シェイクスピア・フェスティバル」側の挑発に乗ったわけですよ(笑)。

実際、戯曲としては優れているとは言い難い。男がトランクの中に入って女性の寝室に忍び込むとか、かなり無理な設定があるんですよ。最後には突然スペクタクルになるし、「それは無茶だろ?!」と言いたくなる荒唐無稽なバカバカしさがある。古い時代のローマとブリテンが舞台ですが、山の中の洞窟が出てきたり、ビジュアルを作るのがとても難しいんです。単純化された物語でありながら、おとぎ話ではなく、生き生きとした演劇として成立させるにはどうしたらいいのか。正直言って七転八倒してますね。

— 糸口は見つかりそうですか。

自己模倣に陥らないために、自分の中で色々としミュレーションをしているところです。感覚だけを肥大させて待っていれば、きっとどこかに行き着けるだろう、と。それに実力のある、いい俳優が揃いましたから。ロンドンでも、日本の俳優たちの演

まず4月は、彩の国シェイクスピア・シリーズ第25弾となる『シンペリン』。5月には「ワールド・シェイクスピア・フェスティバル」のアジア代表として招待を受け、ロンドン公演も行われる。

技のレベルが、ヨーロッパの第一線の俳優たちに引けを取らないということを実証したい。大竹しのぶさんの素晴らしいこれまでのシェイクスピア作品を通して知っていますし、シェイクスピア初挑戦の阿部寛さんや窪塚洋介さんは、経験したことのない言語やレトリックを与えられることで、その隙間を埋めようと頑張ってくれるでしょう。面白くなると思いますよ。

— 演出家としても、戯曲の完璧ではない部分を埋める面白さはある、と？

それはありますね。シェイクスピアだって、全てが傑作というわけじゃない。『ペリクリーズ』も『冬物語』も、お世辞にもよく出来た戯曲とはいえませんでした。でも苦勞しながら頑張ると、結果的に面白い作品になる場合もあるわけです。そう自分にも期待しています。

【シンペリン】

ロマンス劇には理不尽ともいえる強引な物語の展開が常だが、なかでも『シンペリン』が一番。ブリテンとローマを絶えず行き来する展開のなかで、次はどうなるのだろうかという、ハラハラドキドキの連続が、劇的効果を高める。もちろん、嫉妬、裏切り、後悔、償いなどなど、ロマンス劇特有の心情もたっぷりあって、終幕は大団円のハッピーエンド。時間と空間を難なく飛び越えて、必要とあらば奇跡も簡単に起こして、自由奔放に書いたシェイクスピアの大人のオトギ話だ。

— 念願かかっての村上作品ですね。

夢のようです。村上さんの作品は初期からずっと読んでいて、「ニナガワ・スタジオ」の稽古でも、よく村上さんの短編をテキストに使っていました。村上作品を好きな理由は説明しにくいけれど、こだわり方やものの見方、ある種の空気や生理を共有できるということが大きいですね。日本に距離感のある人物の描き方や、現実の世界に対する、かすかな違和感のようなものが好きなんです。

海外で舞台化された『カフカ』の戯曲(フランク・ギャラティ脚色)を読んだら面白くて、これはやりたい、と。もともと村上さんの作品の奥の奥には、演劇的なものが流れているような気がしていたんですよ。ギリシャ悲劇、シェイクスピア、チェーホフのひそやかさ、テネシー・ウィリアムズの匂い……。『カフカ』は『オイディプス王』もモチーフになっていますが、暗喩、メタファーをどう再創造していくのかが、ものすごく面白いんです。例えば小説では空から魚やヒルが降ってきたり、“カーネル・サンダース”“ジョニー・ウォーカー”などと記号化されたような人物が出てくる。それを舞台にすると、ナチュラルリアルさと、象徴的でメタフィジカルな部分を両立させなければならない。非常に高度な技術を要求されるので、そこをクリアしたいと思うわけです。

— 主人公が15歳の少年というのも、村上作品では少し異色です。



柳楽優弥

田中裕子

カフカを誰にしようかと考えていた時に、そうだ、柳楽優弥君がいい、と。柳楽君の現在が、ある抑圧の中で醒めている刹那な少年、というカフカ像に重なる気がし

村上ワールドを繊細に、ひそやかに

続く5月には、村上春樹の世界のベストセラー小説『海辺のカフカ』がついに舞台化される。世界中にファンを持つ村上作品だが、日本人による舞台化は初となる。15歳の少年「カフカ」の魂の彷徨を描く本作で、蜷川は村上ワールドにどう対峙しようとしているのか。

『海辺のカフカ』

たんです。あとは田中裕子さんと長谷川博己さん、木場勝己さんに入って。この作品は「体温」の温度設定が難しく、熱すぎても冷えすぎてもいけない。その「温度設定」を考えながらキャスティングしました。

— どんな世界観になりそうですか。

これはもうビジュアルは出てますよ。僕はニューヨークの自然史博物館が大好きで、ガラスのボックスの中に、精巧な生物のミニチュアがズラッと並んだ展示があるんです。これが別世界のようにきれいでね。あれを組み合わせて使おうと。

小説は読者1人ひとりがイメージできるけれど、映像や舞台は現実化されたものが現れる。これだけ多くの人に愛されている作品ですから、ビジュアルについても、「自分のイメージとは違う」という違和感を持つ人がいて当然でしょうね。

— おそれがありますか。

おそれのない仕事なんてないですよ。それを越えられるかどうか。おそれながらもそれにとらわれず、ぐいぐいと引っ張っていきけるものにしたい。ひそやかに、繊細に、戯曲に描かれている全てを語ってあげれば、自ずから小説の世界が立ち上がっていくだろうと思っています。内容については断定的に語るべき作品ではない気がするし、観る人に自由に受け止めてもらえる作品にできればいいな、と。

【海辺のカフカ】

15歳の誕生日、「世界で最もタフな15歳になる」ことを決意し、カフカ少年は家出し、高速夜行バスで東京から高松に向かう。並行してもう一つの物語、戦争中に記憶や識字能力を失ったナカタさんがジョニー・ウォーカーを殺害し、高松に向かう。現実なのか幻想なのか、読者を不思議な世界に誘うこの小説は、2005年にニューヨーク・タイムズの年間ベストテンに選ばれ、フランツ・カフカ賞受賞。単行本で74万部、文庫で192万部というベストセラーの舞台化。



『海辺のカフカ 上』『海辺のカフカ 下』村上春樹著、新潮社刊



『しみじみ日本・乃木大将』

井上ひさしの演劇的職人芸

7月、井上ひさしの1979年作品『しみじみ日本・乃木大将』。明治天皇の死に殉じた乃木大将夫妻について、将軍の愛馬たちが語っていくという、井上ひさしならではの独創的な着眼点が光る。

——新作の『ムサシ』は別として、蛭川さんはこれまで、猥雑さや怒りのパワーに満ちた初期井上戯曲を好んで取り上げてこられた印象があります。

今までは混沌としたエネルギーが渦巻く井上さんの初期の世界をやってきたけれど、やがてそれも自己模倣を始めるだろう、と。そこへこの作品はどうかという話があって、これまでの流れとは違う形で井上さんの作品と対峙する、いい機会かもしれないと思ったわけです。

前から一緒に仕事をしたいと思っていた風間杜夫さんと、久しぶりに一緒にいる根岸季衣さん。初めての人もいますが、あとはいつも出てくれる俳優たちが、将軍の「馬の足」を演じる。馬に人間のさまざまな性格が表れていて、1頭の馬でも、前足と後ろ足のキャラクターが分かれているところなんて、実に井上ひさしさんらしいですね。職人的な演劇の楽しみ方がある作品です。

——現時点で何かイメージはありますか。具体的にはこれからですが、今回は馬の

厩舎の話ですから、まずリアルな厩舎は外せないですね。井上さんの戯曲は、ト書きが非常に細かいんですよ。どの作品でも、上手と下手の人物の出入りまで、厳しく指定がある。井上さんは文学人であると同時に、現場の演劇人でもあったから、現場のことが全部わかるわけです。僕は今までの作品でも、井上さんがト書きに書いてあることは、99%やってきました。書かれた通りにきっちりやりながら、自分が井上さんの作品をやる意味を考えていくことになるでしょうね。

……と、「春夏コレクション」3作の展望を語り終えるころ、何だかソワソワと落ち着かなくなってきた蛭川。「これから『ハムレット』の稽古場見学会があるから気が

気じゃなくて。どういう空気になるのか、興味があると同時にすごく不安なんだ」と胸中を明かす。未知なるものへの「おそれ」を、演出家はどう乗り越えるのか？ 続きは次ページで！

【しみじみ日本・乃木大将】

明治天皇大葬の日(1912年=大正元年9月13日)に静子夫人とともに自刃した陸軍大将、伯爵乃木希典の殉死の当日、決行直前の夕刻2時間前、場所は邸内の厩舎。壽號、環號、乃木號の3頭に加え、紅號、英號という近隣の2頭の馬も登場する。しかも、それぞれ人格ならぬ馬格の異なる前足、後ろ足にわかれて物語は進行するという、奇想天外な井上ひさしならではの舞台。馬の目から見た乃木大将の一生に加え、馬たちによる乃木大将の生涯が劇中劇として展開する、馬による馬芝居だ。

彩の国シェイクスピア・シリーズ第25弾 『シンペリン』

日時：4月2日(月)～21日(土) 会場：彩の国さいたま芸術劇場 大ホール
演出：蛭川幸雄 作：W.シェイクスピア 翻訳：松岡和子
出演：阿部 寛、大竹しのぶ、窪塚洋介、勝村政信、浦井健治、瑠川哲朗、吉田鋼太郎、鳳 蘭 ほか
チケット(税込)：一般 S席9,500円/A席7,500円/B席5,500円/学生B席2,000円
メンバーズ S席8,600円/A席6,800円/B席5,000円

4月	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	
曜日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	
13:00																					
18:30																					

★：映像収録のため場内にカメラを設置いたします
【さいたまアーツ・シアターライブ!!】
全公演、開場30分前から劇場内情報プラザ等にて多彩なメンバーによるライブ演奏をおこないます。

『海辺のカフカ』

日時：5月3日(木)～20日(日) 会場：彩の国さいたま芸術劇場 大ホール
原作：村上春樹 脚本：フランク・ギャラティ 演出：蛭川幸雄
出演：柳楽優弥、田中裕子、長谷川博己、柿澤勇人、佐藤江梨子、高橋 努、鳥山昌克、木場勝己 ほか
チケット(税込)：一般 S席9,800円/A席7,000円
メンバーズ S席9,000円/A席6,300円

5月	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	
曜日	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	
13:00																			
18:00																			
18:30																			

井上ひさし生誕77フェスティバル2012 こまつ座&ホリプロ公演

『しみじみ日本・乃木大将』

日時：7月12日(木)～29日(日) 会場：彩の国さいたま芸術劇場 大ホール
作：井上ひさし 演出：蛭川幸雄
出演：風間杜夫、根岸季衣、六平直政、山崎 一、大石継太、朝海ひかる、香寿たつき、吉田鋼太郎 ほか
発売日：一般5月12日(土) メンバーズ4月28日(土)
※メンバーズの方には別途ご案内するプレオーダーがあります。

7月	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	
曜日	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	
13:30																			
18:30																			



当劇場で人気の高い「稽古場見学会」。今回は、さいたまネクスト・シアターの新作「2012年・蒼白の少年少女たちによる『ハムレット』」が対象だ。見学者は埼玉県内在住・在学の中学生・高校生限定で、去る2月5日、5倍の倍率に当選した40人が稽古場を訪れた。

取材・文：市川安紀 Photo：宮川舞子

蛭川×ネクスト、白熱の現場

稽古場には本番さながらのセットが組まれている。まず蛭川は大道具裏、床下などに潜んで(?)いるスタッフを紹介した。「実際はこういう人たちが舞台を支えていることを知ってください。今日は俳優をあまり叱りません」。すかさず俳優たちからは「ウソだ〜」の声も上がるなか、蛭川が「バン！」と手を叩いて稽古スタート。この日の稽古は主にハムレット(川口 寛)、叔父クローディアス(松田慎也)、母ガートルード(土井睦子)の登場シーン。今回は年齢が高い役も、すべて平均年齢25歳のネクストのメンバーが演じている。若い俳優の「等身大の演技」などではとても太刀打ちできない難敵がシェイクスピアなのだ。「人に聞かせようと思わずに内面の声を素直に出して」などと矢継ぎ早に蛭川から声が飛び、同じシーンを何度も繰り返す。ハムレットとガートルードの激しい言い争いの場面では、蛭川のボルテージと要求レベルもぐんぐん上昇。「動きすぎないで」「あまり大きな声で言うと自分を正当化するように聞こえるぞ!」……。蛭川の言葉に俳優たちがビビッドに反応するたび、芝居がより濃密になっていく。

みんな生きることに真剣だ

見学者たちが息を詰めて見守った1時間はアツという間に過ぎ去り、お次は質疑応答タイム。若い世代ならではの素直な疑問が次々と飛び出す。「演技中に蛭川さんにいろいろ言われて何を考えているんですか」との質問に、ハムレット役の川口は「なるべく冷静でいたいけど、実際はテンパってます(笑)」。「本番前に緊張してしまう」という演劇部の高校生には、オフィリア役の深谷美歩が「私も緊張します。『大丈夫、私はできる』ってブツブツ言ってます」。さらにシェイクスピアの長台詞を喋る秘訣、イギリスの芝居で日本の音楽(こまどり姉妹)を使う理由、俳優の肉体について、セットプランの意図など、演技や演出について、核心を突くような質問がどんどん続く。蛭川は出し惜しみすることなく、時には俳優にムチャぶりもしながら、誠実に答えていく。また「この道一本で行こうと決心した時、家族の反応は？」という根源的な問いかけも。若い俳優たち自身もまだ迷いのさなかにあり、家族との距離感もさまざまで、自分自身のこれからと葛藤する心の内を、真摯に、率直に話していたのがとても印象的だった。40人の見学者のうち、中学生は17人、高校生は23人。8割が女の子だ。部活で演劇をやっている人もいれば、実際の舞台はまだ一度も観たことがない人もいる。けれど見学会が終わると、一様に声を弾ませて「迫力がすごかった!」と興奮気味。「蛭川さんの言葉で役者さんの演技がガラッと変わったのがすごかった」「1時間が5分くらいに感じた」「何度も同じ場面をやる体力と精神力に驚いた」……。アンケートの感想には、演劇という「ものづくり」の現場に触れた驚きと感動がストレートにつづられていた。中には、「将来演劇の道に進んでみたいと思った」という人も。人が人と触れ合い、人の心を衝き動かすエネルギーに満ちた演劇の魅力や、若い感性で受け止めてくれたようだ。この日のこの1時間が、もしかしらこの日参加した誰かの一生に大きな影響を与えるかもしれない。

「2012年・蒼白の少年少女たちによる『ハムレット』」稽古場見学会

稽古場の熱気を肌で感じた1時間



今朝一番すごいこと思、たのは稽古場の空気です。蛭川先生の台詞で俳優の皆さんの空気が一気に変わるのがびっくりしました。本当にありがとうございました。

今日の稽古場見学会は貴重な体験ができて、本当に良かったです。今日の稽古場見学会は貴重な体験ができて、本当に良かったです。ぜひまた参加したいと思っています。ありがとうございました。



芝居のことだけでなく、普段生活していくことに困ることもとても勉強になりました。おっさんの演技や稽古にとても圧迫感を感じました。質問の答えでは、舞台の裏のことや、役者さんがどのようなことを考えているかが分かって、よかったです。



稽古の熱気を身近に感じられて、とても興奮しました。こんな経験はなかなかないので、とても勉強になり、楽しかったです。役者の方々の迫力、演出の先生の迫力、すごかったです。ありがとうございました。



オールメールで演じられる『トロイラスとクレシダ』

戦争がふたりを引き裂き、戦争が悲劇を招く——。

彩の国シェイクスピア・シリーズ第26弾

『トロイラスとクレシダ』

『トロイラスとクレシダ』は、シェイクスピア劇のなかでは「問題劇」というジャンルに分類されている。歴史劇のようにそうではなく、あえていえば人間臭さに充ちた恋愛悲劇ともいえるが、何が「問題劇」なのか、河合祥一郎さんが説く。

名誉なき人生に何の意味があるのか？

文：河合祥一郎 [東京大学教授]

シェイクスピアには、愛し合う男女の名前を冠した作品が三つある。若者の恋を描いた『ロミオとジュリエット』、熟年の愛の確執を描いた『アントニーとクレオパトラ』、そして裏切りをテーマにした『トロイラスとクレシダ』だ。『トロイラスとクレシダ』はあまり知られていないかもしれないが、それはこの作品が実ににがにがしい、救いのない悲劇であるためだ。

主人公の若き武将トロイラスは、永遠の愛を誓ったはずの恋人クレシダが敵軍ギリシャの陣営でほかの男に心を移しているのを見て、わが目を疑って叫ぶ——「これはクレシダであって、クレシダではない！」——確かにクレシダではあるが、自分を愛してくれていたクレシダではない、という意味だ。

これぞシェイクスピア得意のオクシモロン(撞着語法)である——AであってAではないという論理矛盾をあえておかすことで人間性の矛盾を表現する。ほかに、「きれい

いは汚い、汚いはきれい」(『マクベス』)、「私は私ではない」(『十二夜』、『オセロー』)、「私の恋人は私のものだけど私のものではない」(『夏の夜の夢』)など、オクシモロンの例は枚挙にいとまない。人間は理屈では割り切れない矛盾した存在だというシェイクスピアの考えに裏打ちされた表現である。

だが、オクシモロンがオクシモロンとして機能するためには、世の中の論理体系がしっかり機能していなければならない。もし世界のあらゆる価値体系が崩壊してしまったら、矛盾が矛盾として認識されず、人は生きてゆく意味すら見失うだろう。『トロイラスとクレシダ』は、まさにそうした意味の崩壊に向かって突き進んでいく悲劇なのである。

固く誓ったはずの愛が破綻し、生きる拠りどころを失ったトロイラスは、戦場に身を投じて狂ったように戦うが、話は単にトロイラス失恋物語にとどまらない。この劇では、古い時代を支えていた大切な価値観である honour (名誉) が失われていくのである。

Honour とは、名誉であるのみならず、礼節・道義心・敬意でもあり、女性の貞節・純潔でもある。かつて人は honour を拠りどころとして生きていたが、時代が下れば下るほど、人は敬意や礼節といったものを失い、実利的な生き方をするようになってきた。

たとえばクレシダの浮気などは、現代的視点からは、単にトロイラスがふられただけのことであり、クレシダが誰を選ぼうが彼女の勝手だということになるかもしれないが、当時の考え方に従えば、夫婦の誓いをしながら別の男に心移りをするなど、節操のない破廉恥な行為であり、クレシダは娼婦にも似た見下げた女だということになる。つまり、トロイラスの経験する衝撃は、名誉や貞節といった価値観に支えられていた世界が崩壊する時代の衝撃でもあるのだ。

そのような致命的な価値観の崩壊が、この作品のあちこちで起こる。戦争にも「名誉のため」という大義名分があった——そもそも、この作品の舞台となるトロイ戦争は、

Yusuke Yamamoto



山本裕典

爆笑と感動で劇場を沸かせた『じゃじゃ馬馴らし』から2年ぶりの“オールメール・シリーズ”の登場。しかもこれまでの喜劇から一転、6作目にして初の悲劇に挑む。『じゃじゃ馬馴らし』でルーセンショールとピアンカという美男美女カップルを演じた山本裕典と月川悠貴のコンビがタイトルロールを担うのも見どころ。トロイの王子トロイラスと、トロイの神官の娘でありながらギリシャ方に寝返ったクレシダ、そんな2人の恋が戦争を引き起こし、悲劇を招く。シェイクスピアが戯曲を書いた時代のスタイルそのままに、全キャストを男優が演じる“オールメール・シリーズ”は毎回センセーショナルな話題を呼んでいるが、新たなステージへと踏み出す今作はこれまで以上に見逃さない！

Yuki Tsukikawa



月川悠貴

絶世の美女の誉れ高い人妻ヘレネが、トロイラスの兄パリシに奪われたために、ギリシャの総大将アガメムノンが国家の名誉を回復せんがために起こした戦争であった。

それゆえ、名誉を重んじる戦いぶりが展開されていた。トロイラスの一番上の兄である勇士ヘクトルが、両軍の見守るなか、ギリシャの武将アイアスと一騎打ちをするのも、正々堂々と礼節を尽くして戦うという古風な価値観の重要性を示している。戦いのなかにも礼儀や約束事がある——いや、あったのだ。

[STORY]

トロイ戦争のさなか、トロイ方からギリシャに寝返った神官の娘クレシダに狂おしいほど思いを寄せるトロイの王子トロイラスは、彼女の叔父を介して求愛。2人は結ばれ、永遠の愛を誓い合う。が、捕虜交換によりクレシダは敵国ギリシャ軍へ送られる。ギリシャの武将たちの気をそそるクレシダ。時がたち、軍使としてギリシャ陣営を訪れたトロイラスが見たものは、新たな恋人と抱き合っているクレシダの姿だった——。

劇の終盤で、戦いに疲れて武装を解いて休んでいたヘクトルが、敵アキレウス(アキレス)の一群に囲まれて、「今は武装を解いている。しばし待ってくれ」と言うのも、当然、戦う準備ができていない者を殺すことはないという理解してのことだった。

ところが、アキレウスは礼儀も約束事も無視し、部下たちに命じてヘクトルを襲わせ、惨殺させる。しかも、その死骸を馬でひきずりまわすという侮辱まで加えるのである。

クレシダが見下げた女となってトロイラ

スを驚かすのと同様に、武将アキレウスの卑劣さはきわめてショッキングだ。

当時のエリザベス朝の社会にも、信愛や仁義を失って、己の利ばかり追い求めて生きる新しい生き方が横行していた。それで果たして人間らしい生き方をしていると言えるのかとシェイクスピアは問いかけているように思われる。トロイラスとクレシダを最初に引き合わせた女術役の叔父パンドロスが劇の終わりで観客に呪いを浴びせるのも、名誉や義を失ってしまった新しい時代への辛辣な警告なのではあるまいか。

彩の国シェイクスピア・シリーズ第26弾『トロイラスとクレシダ』

日時：8月17日(金)～9月2日(日) 会場：彩の国さいたま芸術劇場 大ホール
演出：蛭川幸雄 作：W.シェイクスピア 翻訳：松岡和子
出演：山本裕典、月川悠貴、横田栄司、原康義、廣田高志、星智也、たかお鷹、小野武彦 ほか
チケット(税込)：一般S席8,000円/A席6,000円/B席4,000円/学生B席2,000円
メンバーズS席7,200円/A席5,400円/B席3,600円
発売日：一般5月19日(土) メンバーズ5月12日(土) ※メンバーズの方には、別途ご案内するプレオーダーがあります。

8月	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	9月	1	2
曜日	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	
13:00	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	
18:30	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	

感じるダンス、楽しむダンス、 日仏ダンスの競演



Photo:Karl Biscuit

日本初登場!
夢幻に遊ぶリアルな未来/世界

システム カスタフィオール

『Stand Alone Zone ～スタンド・アローン・ゾーン』

日時：6月23日(土) 開演15:00 ※上映時間：約70分/途中休憩なし 会場：彩の国さいたま芸術劇場 大ホール
演出・CG・音楽：カール・ビスキュー 振付：マルシア・バルセロス 出演：システム カスタフィオール(4名) 初演：2009年
チケット(税込)：一般 S席3,000円/A席2,500円 学生(高校生以上)2,500円 子ども(小・中学生)1,000円
メンバーズ S席2,500円 ※A席は場面によって舞台の一部が見切れる可能性があります。予めご了承ください。
発売日：一般 3月31日(土) メンバーズ 3月24日(土) 共同主催：東京日仏学院

現実とファンタジーの境界を自由に行き来するフランスのアーティスト集団カスタフィオール。その中心的人物は、振付家マルシア・バルセロスと、演出家で音楽家のカール・ビスキューだ。夢やユーモア、子どもの世界への関心はよく知られているが、2人の関心の矛先は、産業汚染などで破壊されつつある自然環境の保護へも向けられている。「2813年秋、人間は地上から離れて、天空に隠れ家を見つける……」で始まる本作『スタンド・アローン・ゾーン』は、行き過ぎた産業開発や生命の源である森林破壊に対する強い抗議が込められた作品だ。

本作は、アンドレイ・タルコフスキー監督のSF映画『ストーカー』に強くインスピレーションを受けている。『惑星ソラリス』でその名が世界的に知られることと

なったタルコフスキー監督。とりわけ「水」に強く魅せられていた彼の自然描写は叙情に充ちており、『ストーカー』でも、彼の水に対する偏愛はそこかしこに散りばめられている。「ゾーン」と呼ばれる立ち入り禁止地域の奥には願いを叶える部屋があるとされ、ある日、2人の男が「ストーカー」と呼ばれる案内人に導かれ、「ゾーン」へと足を踏み入れる…。物語は謎に満ち、「ゾーン」の正体が最後まで明かされない。とはいえ観客は、人間の本质や苦悩、希望をそこに見出してゆくのだ。

『スタンド・アローン・ゾーン』も、全てがメタファーに包まれているといってもよい。未来の子どもたちが未知なる「ゾーン」へと踏み込んでいく旅の始まりは、特に印象的だ。汚染された都市を宇宙船に乗って逃れる住民は雲のただ中を横切り、そこで

澄んだ空気を吸うことができる。未来への旅行者は生き延びるために必要な酸素を与えてくれる樹木を探して旅を続ける。そこには、宮崎 駿の『天空の城ラピュタ』や『ハウルの動く城』などのイメージも垣間見える。舞台上に現れる架空の動物や奇想天外な容姿のキャラクターたちは、鳥の頭蓋骨の頭をした医者をはじめ、非常に示唆に富んでおり、強く印象に残る。また、映画の手法を駆使した演出、振付も興味深い。半円形のスクリーンに映し出されたCG映像が、舞台のダンサーを文字通り覆い尽くし、ダンサーは映像の世界の中を動き回っているかのようだ。演劇とダンス、映像が混じり合う地点で創られた、SFと隣り合わせのこの作品は、現実と夢が交錯するもうひとつの世界へ観客を誘うとともに、人生の深い教訓を教えてくれる。



金森 穂 Photo:篠山紀信



見世物小屋シリーズ第1弾『Nameless Hands ～人形の家』(再演・2010年)より Photo:村井 勇

国内外が大注目、待望の新作を観ずして
Noismは語れない

Noism1

新作公演 見世物小屋シリーズ第3弾 ※見世物小屋シリーズ3部作完結編

『Nameless Voice ～水の庭、砂の家』

日時：7月6日(金) 開演19:30 7日(土) 開演16:00 8日(日) 開演16:00
会場：彩の国さいたま芸術劇場 小ホール 演出振付：金森 穂 出演：Noism1 初演：2012年6月(新潟) 予定
チケット(税込)：一般 4,500円 学生3,000円 メンバーズ 4,100円 発売日：一般 3月31日(土) メンバーズ 3月24日(土)

文：小野寺悦子 [舞踊ライター]

りゅーとびあ新潟市民芸術文化会館劇場 専属舞踊団 Noism1 が、この夏彩の国さいたま芸術劇場に初登場を果たす。今や日本を代表するダンス・カンパニーのひとつとして定評をもつ Noism だが、その始まりは異例づくし。日本ダンス界の常識を根底から覆す、歴史的出来事でもあった。

遡ること2004年、日本初、そして唯一の劇場専属レジデンシャル・ダンス・カンパニーとして誕生した Noism。レジデンシャル・ダンス・カンパニーとは、ヨーロッパスタイルのプロフェッショナル・ダンス・カンパニーのこと。プロ集団ゆえ、団員は新潟市から給与を得て生計を立てる。それは日本ダンス界が長らく切望していたスタイルであり、かつて実現しえなかった在り方だ。芸術監督に就いたのは、当時ヨーロッパ帰りの演出振付家・舞踊家の金森 穂。ネザーランド・ダンス・シアター II をはじめ世界に名だたるカンパニーで踊り、新進振付家としてその動向が注目されていた金森だが、就任時はまだ29歳という若さ。全てが先駆け、ひとつとして前例

のない中でのスタートである。

旗揚げ公演は、2004年6月の『SHIKAKU』。白一色に包まれた空間と、そこに放り込まれた観客、見え隠れる舞踊家たち。研ぎ澄まされた肉体の輝きと、独創に満ちた鮮烈のステージ……。新たな可能性の出現に、人々は沸いた。あり余る期待に見事応え、一躍日本ダンス界の寵児へと踊り出た Noism。またその勢いは留まることなく、翌年には早くも海外進出を実現。さらに2009年には研修生カンパニー・Noism2 を立ち上げるなど、着実に進化の一途を辿ってきた。

日本唯一の存在として誕生し、今年で設立8年目。数々の秀作や話題作を世に送り出し、繰り返し上演されるレパトリーも増えた。なかでもカンパニーきっての名作として知られるのが、「見世物小屋シリーズ」である。シリーズ第1弾は、2008年の『Nameless Hands ～人形の家』。「現代の見世物小屋」へと変化を遂げた会場と、怪しく漂う妖艶な気配、舞台上に潜む住人のざわめき……。操り、操られ、「見世物」と化す舞踊家の姿が、手が届きそうなほど

間近に迫る。息つく間もなく繰り広げられる見世物と、誰もを虜にする底知れぬ磁力。目にした者は瞬きすら忘れ、ひとり残らずステージへ引き込まれてゆく。本作により、Noism は第8回朝日舞台芸術賞舞踊賞を受賞、同時にキリンダンスサポートを得るという快挙を達成。「見世物小屋シリーズ」は名実共に Noism の代表作となり、カンパニーが誇る人気レパトリーとなった。続くシリーズ第2弾は、2009年に上演された『Nameless Poison ～黒衣の僧』。こちらはチェーホフ国際演劇祭との共同制作にあたり、国内ツアーに加え、同演劇祭での招聘公演、さらに新潟凱旋公演を敢行。国内各地、そして現地・モスクワで大きな評価を手に入れている。

あれから3年の月日が経ち、いよいよ迎える見世物小屋シリーズ第3弾『Nameless Voice ～水の庭、砂の家』。果たして次は、どんな見世物をみせてくれるのか……。幕開けの瞬間、舞台は濃密な闇に包まれる。そしていつしか観客は物見遊山の観衆となり、見世物小屋に巣くう住人の、めくるめく目撃者となる。

レ・ヴァン・フランセは、
その名声に甘んじることはない
ウルトラ・スーパー・アンサンブルといっても過言ではないレ・ヴァン・フランセ。
今回の来日公演でも十八番はもちろん、新たに発掘した名曲を携えて、
レ・ヴァン・フランセファンを至福のひとつときに誘う。



Photo: 青柳聡

LES VENTS FRANÇAIS

EMMANUEL PAHUD/FLUTE
FRANÇOIS LELEUX/OBOE
PAUL MEYER/CLARINET
RADOVAN VLATKOVIĆ/HORN
GIRBERT AUDIN/BASSON
ÉRIC LE SAGE/PIANO

文: 片桐卓也 [音楽ライター]

かれこれ20年ほど前の話題である。当時、私は世界的なコンクールの取材を何年か続けて行っていたことがあった。そしてその時に出会った希有な才能が、フルート奏者のエマニュエル・パユであり、オーボエ奏者のフランソワ・ルルーであった。彼らがコンクールで演奏した時の雰囲気、そしてコンクール後の取材時の会話、さらには日本へ演奏にやって来た時のことなど、いまだにはっきりと覚えている。ともかくコンクールに登場して来た時から、彼らは別格的な完成度を持っていた。

彼らの演奏能力の高さはその当時から話題となっていたが、さらに彼らに加え、天才的クラリネット奏者のポール・メイエと、味わい深い音色を持つバソン(バスーン)奏者のジルベール・オダンとホルン奏者のラドヴァン・ヴラトコヴィチ、そして鋭い音楽的センスをもつピアノのエリック・ル・サージュがひとつのアンサンブルを作り、演奏活動を始めた。それがレ・ヴァン・フランセである。

天才はある時に固まって出現することが多いらしいが、まさに管楽器の天才が集まったグループとして、レ・ヴァン・フランセはあつという間に世界的な人気グループとなった。それも当然だろう。彼らは単に技術的に上手いだけでなく、音楽的なアンサンブルの極意のようなものを知っているしと思えないのだ。彼らが一斉に演奏を始める時、音楽が煌めき出すような、なにかスパークしたような感覚が生まれる。それはこれまでの管楽器アンサンブルには無かった感覚だ。そして、その流れるような演奏の中に、絶

妙に隠された超絶的な技術や、お互いの呼吸をよく感じあうコミュニケーション能力の高さを発見することになる。うっとり、そしてスリリング、さらにエキサイティング。そんな言葉が、彼らの演奏を聴きながら、次々に湧き上がってくるのである。

さて、2002年が初来日ということで今年はちょうど10周年目。その間に様々な作品を演奏してくれたが、今回もひじょうに楽しい作品が並んでいる。ヴェレシュ・シャンドール(1907~1992)はハンガリー出身で、第二次世界大戦後スイスに亡命した作曲家である。亡命前はブダペストのリスト音楽院でリゲティとクルタークなどを教え、亡命先のスイス、ベルン音楽院ではハインツ・ホリガー(オーボエ奏者であり、指揮者、作曲家でもある)などを教えたという名伯楽。最近では彼の作曲家としての業績が見直され、作品がいろいろな形で演奏されるようになってきている。バルトークにピアノを習い、コダーイに作曲を学んだというだけに、緻密で民俗色豊かな音楽を書いている作曲家である。日本ではあまり演奏されない作品だけに、楽しみだ。

ルイズ・ファランク(1804~1875)はフランスの女性作曲家。1842年に女性として初めてパリ音楽院の教授となったことでも知られている。その作品には交響曲なども含まれていたが、彼女の死後はほとんど忘れ去られたという。近年になってその作品が発掘され、楽譜も復刻されて、ようやく演奏されるようになって来た作曲家である。オーボエ奏者のルルーが参加した録音もあるように、ロマン派初期の女性作曲家として、いま再びの注目を集めている存在で、フランス人にとっ

ても新たな発見と言えるだろう。だからこそ、レ・ヴァン・フランセの面々による演奏は貴重な音楽体験となるだろう。

そしてアメリカの作曲家バーバーの《夏の音楽》はピアノ抜きの管楽器五重奏曲で、1956年に作曲されたバーバーの代表的作品。それぞれの管楽器の個性を活かした単一楽章の作品で、とても親しみやすい作品として多くの管楽器グループがレパートリーとしている。さらに、モーツァルトのピアノと管楽の五重奏曲、プーランクの六重奏曲というラインナップは、多くを説明する必要もない傑作。特にプーランクの六重奏曲はレ・ヴァン・フランセの十八番と言っても良い作品である。彼らの録音も定番となっていて、同時に、常に新鮮な感覚を持って演奏する彼らならではの魅力もよく分かる作品となっている。やはりこれは演奏会に欠かせない作品だろう。

いま brass band も盛んになり、その中で管楽器に触れる若者たちも多い。そこから優れた奏者も登場して来ている。レ・ヴァン・フランセの演奏会は常に若者たちの熱気で溢れている。その熱い雰囲気は、他のクラシックの演奏会にはあまり無いもので、いつも私に驚きを与えてくれる。それがレ・ヴァン・フランセの音楽的な達成度の高さをも証明していると思う。

ちなみに、なぜフランス系の管楽器奏者には優れた才能を持つ人が多いのか、と多くの管楽器奏者や指揮者に尋ねたことがある。その答えはフランス語という言葉を探る口の周りの筋肉の能力、優れた教師と伝統、そしてキスが上手だ、というものだったのだが、果たしてこの中に正解があるのだろうか？

レ・ヴァン・フランセ Les Vents Français

エマニュエル・パユ、フランソワ・ルルー、ポール・メイエを始めとする木管楽器のスーパースター達が結成した夢のアンサンブル。2002年3月、アンサンブルとしての初来日時にはNHKテレビでもその演奏会の模様を放映され、予想をはるかに超えるあまりに完璧な演奏は聴衆に衝撃を与えた。フランスのエスプリを受け継ぐ木管アンサンブルとして演奏される機会の少ない名曲の紹介、最高の奏者で最高の演奏を心がけ、合奏でも個人の輝きを見せるというフランスの伝統を重んじている。レパートリーによってメンバーや編成も変わる。メンバーが参加し1999年に発売されたプーランクの室内楽全集のCDは第37回「レコード・アカデミー大賞」を受賞。以来BMGやEMIよりトリオや《動物の謝肉祭》のCDが発売され話題をよんでいる。今回もベスト・メンバーで待望の5度目の来日。

レ・ヴァン・フランセ

日時: 4月21日(土) 開演 15:00 会場: 彩の国さいたま芸術劇場 音楽ホール
出演: エマニュエル・パユ(フルート)、フランソワ・ルルー(オーボエ)、
ポール・メイエ(クラリネット)、ラドヴァン・ヴラトコヴィチ(ホルン)、
ジルベール・オダン(バソン)、エリック・ル・サージュ(ピアノ)
曲目: バーバー: 夏の音楽 ルイズ・ファランク: 六重奏曲
モーツァルト: ピアノと管楽のための五重奏曲 変ホ長調 KV 452
ヴェレシュ・シャンドール: オーボエ、クラリネット、バソンのためのソナチネ
プーランク: 六重奏曲
チケット(税込): 一般 正面席 5,000円 メンバーズ 正面席 4,500円
※バルコニー・学生席 予定枚数終了

Piano Étoile Series

才能溢れる若きピアニスト、 彩の国に続々集結

一人として聴き逃したくないと思わせる、

2012年度ピアノ・エトワール・シリーズのラインナップ。

「21世紀を担うべき未来の巨匠たちを聴く」というコンセプトにまさにふさわしい、
将来特別な存在となるであろう興味深い若手が揃っていると、声を大にして言いたい！

文：高坂はる香 [音楽ライター]

“ボジャノフ・スタイル”を堪能する

まず6月に登場するのが、ブルガリア生まれのピアニスト、エフゲニ・ボジャノフ。独特の解釈による強烈な抑揚と美しい音で、世界中の聴衆を熱狂させている注目の若手だ。非常に低い椅子（世界中に専用の椅子を持参する）に腰掛け、身体を揺らし、しなやかにコントロールされる腕で奏するのは、大砲のような重量感の音から、消え入りそうに響くピアノシモまで、実に多彩だ。

これまで数々の著名なコンクールで結果を残しているが、この自由な音楽表現ゆえに、必ず審査員の間で論争が起こる。一部の人は心を奪われ虜になり、逆に一部の人は受け入れ難いものと感じる。聴き続けるうちに癖になって離れられなくなる人もいる。そんな強い主張を持つ演奏家だ。

プログラムにあるショパンのマズルカとワルツは、2010年のショパンコンクールにおいて審査員勢から絶賛されたレパートリー。一瞬、聴き慣れないリズム感と思われるのは、彼が古い巨匠の演奏ばかりを聴きこんでいることによる。マルタ・アルゲリッチは彼のマズルカとワルツについて「他の誰もくれない特別なものを与えてくれた」と評した。ショパンらしい演奏とは何かという問いに真っ向から挑むような、新しく、同時にクラシカルな演奏に出会えるだろう。

リストの《ダンテを読んで》《オーベルマンの谷》では、妖しく力強い美音で実力を発揮するだろう。そして歌劇《ファウスト》からのワルツでは、肌になじんだ解釈で、聴く者にわかにか高揚させる華麗な音楽を聴かせてくれそうだ。

ボジャノフはかつて、「どのホールに行っても、自分の手にかかれればそのピアノがそれまで聴いたこともない優れた音を出すところを見せつけたい気持ちがある、心のどこかにある」と言ったことがあった。その言葉の通り、我々の想像を超える表現でピアノの新たな魅力を見せてくれることだろう。その耳で確かめてみてほしい。

ボジャノフはかつて、「どのホールに行っても、自分の手にかかれればそのピアノがそれまで聴いたこともない優れた音を出すところを見せつけたい気持ちがある、心のどこかにある」と言ったことがあった。その言葉の通り、我々の想像を超える表現でピアノの新たな魅力を見せてくれることだろう。その耳で確かめてみてほしい。

若さのなかの成熟、リシエツキ

続いて9月には、ヤン・リシエツキが登場する。今年17歳になる彼については、日本でも数年前、ポーランド系カナダ人の天才少年がいると急にあちこちで名前を聞くようになり、今や日本の聴衆にも実力が知られるところとなった。昨年2月にはクラシックの名門レーベルであるドイツ・グラモフォンとの専属契約も結んだ。

リシエツキのピアノの魅力は、ノーブルで美しい音色にあるだろう。空に向かってまっすぐに伸びた青竹のような素直な音が、作品に生命を吹き込む。フレッシュで精神的な意味での育ちの良さを感じさせる若者でありながら、驚くほど多くの種類の音を持ち合わせている。幼少期から演奏経験を積んできたことが、若さの中の成熟を育んだのかもしれない。

プログラムがまた良い。バッハ、モーツァルト、ショパン、そしてメシアン。まさに



Photo:Andras Schram

ヤン・リシエツキ

1995年カナダ生まれ。その詩的で円熟した演奏は世界中から賞賛を集め、各国でオーケストラとの共演を重ねる傍ら、多くの国際音楽祭にも招聘されている。2010年のカナダ建国記念日にはイギリス女王に捧げた演奏会を10万人の聴衆を前に、11年にはバリ管弦楽団のシーズン開幕公演でバーヴォ・ヤルヴィと共演。また、08年・09年の「ショパンとそのヨーロッパ」国際音楽祭（ワルシャワ）でのショパンの協奏曲2曲は、ポーランド国立ショパン協会から10年初頭にCDで発売され、ディアバゾン・ドール賞を受賞。11年ドイツ・グラモフォンと専属契約を締結。

Jan Lisiecki

Vol.19 ヤン・リシエツキ

日時：9月29日（土） 開演 14:00 会場：彩の国さいたま芸術劇場 音楽ホール
曲目：メシアン：〈前奏曲集〉より 第1曲〈鳩〉、第2曲〈悲しい風景の中の恍惚の歌〉、第3曲〈軽快な数〉、第4曲〈過ぎ去った時〉
J. S. バッハ：パルティータ第1番 変ロ長調 BWV 825
モーツァルト：ピアノ・ソナタ第11番 イ長調 KV 331(300i)「トルコ行進曲付き」
ショパン：12の練習曲 作品25

彼の持つ多彩な音色を、隅々まで味わい尽くすことのできる幅広い選曲だ。

リシエツキの透明度の高い音がメシアンの作品を通して塗り重ねられた時、どのような色彩を生むのかは特に興味深い。バッハのパルティータ第1番とモーツァルトのソナタ第11番「トルコ行進曲付き」で聴かせてくれるであろうコロコロと輝くような音には、期待せずにはいられない。注目したいのはショパンのエチュード作品25だ。この、ショパンの祖国ポーランドにルーツを持つ若者が奏でる、少し懐かしいような、それでいて新しいようなリズムの揺れが一体どこからやってくるのか。それを確かめようと、いつもじっと耳を凝らして飽きることなく聴き入ってしまう。その答えはいつも見つからないのだけれど、この若者が揺らすリズムには、確かに強く心を捉えるものがある。

ステージの外ではまだ少年らしい表情を見せる彼は、今まさに成長中。この瞬間を聴き逃すわけにはいかない。

注目度急上昇、 河村尚子の“いま”を聴く

そして11月には、日本の若手で今最も注目され、世界で活躍するピアニスト、河村

尚子が、彩の国のステージに初めて登場する。河村は兵庫県に生まれ、5歳でドイツに渡った。まずはヨーロッパで才能を評価され、それから一気に日本での演奏活動も増やしていったという、まさに世界水準のピアニストだ。数々の名門コンクールで結果を残したことを足掛かりに、著名な指揮者との共演を重ねて着実に経験を積んでいる。歌うような、踊るような、ときに静かにものを想うような彼女のピアノは、人の感情を生き生きと描き出す。人間が創り上げた音楽という芸術。その目線の先に神や儀礼的要素が存在することはあっても、結局、人の心を震わせるものこそが、長く親しまれる。そういう意味で、河村の、聴く者の心に寄り添い、共に感情を分かち、ふわりと包んでくれる温かさを持つピアノは、繰り返し聴きたくなる種類の音楽だ。

河村のプログラムも多様で、彼女のさまざまな歌心を堪能することができるものだ。ベートーヴェンのソナタ「熱情」は、深く凍としたボリュームたっぷりの音が、豊かな心の動きを再現するだろう。スクリャービンの《左手のための2つの小品》では、繊細でひとつ筋の通った音楽へのアプローチが存分に発揮されるに違いない。また、彼女ならではの柔軟なタッチで奏でられるドビュッシーの小品にも期待が高まる。何を演奏していても、無理なく流れるような自然体の音楽であることが大きな魅力だ。

「人から愛されるから、音楽を愛せる。音楽を愛せるから、人にも愛を与えることができる」と、かつて河村は語っていた。実際ステージでの彼女の表情は、すっかり夢中になって音楽に愛情を注ぐ人間のそれであり、会場の空気は、その愛情が客席にまであふれてくるような、あたたかいエネルギーに満ちる。すばらしい音響のホールでこのエネルギーを体いっぱい浴びる、贅沢な時間となるだろう。



Photo:Kiyotane Hayashi

Vol.18 エフゲニ・ボジャノフ

Evgeni Bozhanov

日時：6月9日（土） 開演 15:00 会場：彩の国さいたま芸術劇場 音楽ホール
曲目：ベートーヴェン：ピアノ・ソナタ第18番 変ホ長調 作品31-3
ショパン：マズルカ第21番 嬰ハ短調 作品30-4
マズルカ第26番 嬰ハ短調 作品41-1 マズルカ第32番 嬰ハ短調 作品50-3
ショパン：ワルツ第8番 変イ長調 作品64-3 ワルツ第5番 変イ長調 作品42
ワルツ第1番 変ホ長調 作品18「華麗なる大円舞曲」
リスト：エステ荘の噴水、ダンテを読んで—ソナタ風幻想曲
オーベルマンの谷、グノーの歌劇《ファウスト》からのワルツ

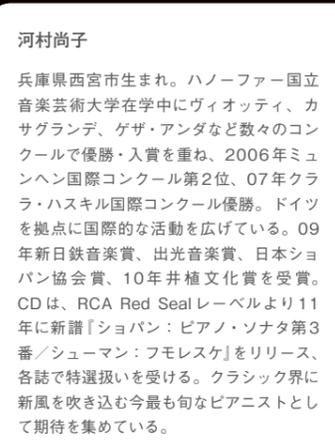


Photo:寺澤有雅

河村尚子

兵庫県西宮市生まれ。ハノーファー国立音楽芸術大学在学中にヴィオッティ、カサグランデ、ゲザ・アンダなど数々のコンクールで優勝・入賞を重ね、2006年ミュンヘン国際コンクール第2位、07年クララ・ハスキル国際コンクール優勝。ドイツを拠点に国際的な活動を広げている。09年新日鉄音楽賞、出光音楽賞、日本ショパン協会賞、10年井植文化賞を受賞。CDは、RCA Red Sealレーベルより11年に新譜『ショパン：ピアノ・ソナタ第3番／シューマン：フモレスケ』をリリース、各誌で特選扱いを受ける。クラシック界に新風を吹き込む今最も向なピアニストとして期待を集めている。

Vol.20 河村尚子

日時：11月25日（日） 開演 14:00 会場：彩の国さいたま芸術劇場 音楽ホール
曲目：ベートーヴェン：ピアノ・ソナタ第23番 短調 作品57「熱情」
スクリャービン：〈左手のための2つの小品〉作品9
ドビュッシー：〈前奏曲集〉より〈亜麻色の髪の乙女〉、〈アナカプリの丘〉、〈花火〉ほか

Hisako Kawamura

ショパンからさらなる極みへ、
ブレハッチ

そして、過去の出演者のその後を追う「アンコール！」Vol.1には、ラファウ・ブレハッチが再登場する。2005年のショパン国際ピアノコンクールに優勝した後、エトワール・シリーズ第1回目に出演したが、2007年のことだ。歳月が流れ、その大きな進化を確かめるのにふさわしい時が訪れた。

端正で、哀愁とひそやかな喜びを湛えたピアノイズム。そこに作曲家の生き写しのような華奢な容姿が相まって、「ショパンの再来」と言われたブレハッチだが、その後も周囲に流されることなく慎重に演奏活動を選び、レパートリーを広げてきた。

ベートーヴェンのソナタを弾くブレハッチの顔は、キリリと引き締まるように見える。そして繊細さをそのままに、音には一気に意志の強さが増加する。比較的初期の大きなソナタである第7番でどのような世界を描いてみせるのか、楽しみだ。また、シマノフスキは、ブレハッチが11歳のときに初めて聴き、その美しさに切ないほどに惹きつけられてしまったという、ポーランドが生んだ偉大な作曲家だ。静かにきらめく強く温かい音が紡ぐ、ソナタ第1番を聴くことができるだろう。

そして、やはり彼のショパンを聴くことができるのはいつでも嬉しい。例えば本人がショパンだけを弾くピアニストというレッテルを喜ばないとしても、演奏を聴けば、あの天性の音とリズム感はやはりショパンのために存在していると思ってしまう。「ショパンの音楽は、一瞬にしてすべての情景を表現し、訴え、聴き手に新しい発見をもたらす。それを演奏するのはとても難しいけれど、だからこそ、ショパンが好きなのだ」と以前ブレハッチは語っていた。

Rafał Blechacz

ラファウ・ブレハッチ

1985年ポーランド生まれ。2005年、ショパン国際コンクールにおいて優勝を果たすとともに、マズルカ賞、ポロネーズ賞、コンチェルト賞、ツィメルマンによって創られたソナタ賞を受賞するという快挙を成し遂げた。以後、名門オーケストラとの共演や主要音楽祭に招かれ、高い評価を得ている。06年、ドイツ・グラモフォンと5年間の専属契約を締結。ショパン生誕200周年にあたる10年はベルリン、ウィーン、ニューヨーク、東京など世界の主要都市にて演奏会を行った。「ピアノ・エトワール・シリーズ」には、第1回目に出演。

©Felix Broede / DG

ピアノ・エトワール・シリーズ
アンコール！ Vol.1 ラファウ・ブレハッチ

日時：2013年2月2日(土) 開演16:00 会場：彩の国さいたま芸術劇場 音楽ホール
曲目：ベートーヴェン：ピアノ・ソナタ第7番 二長調 作品10-3
シマノフスキ：ピアノ・ソナタ第1番 ハ短調 作品8
ショパン：夜想曲第10番 変イ長調 作品32-2、
ポロネーズ第3番 イ長調「軍隊」/第4番ハ短調、3つのマズルカ 作品63
スケルツォ第3番 嬰ハ短調 作品39

Message

今回で三度目の公演となりますが、彩の国さいたま芸術劇場で演奏ができることを、私はいつもとても幸せに思います。初めての公演は2004年7月、ドビュッシー、リスト、ショパンの作品を演奏したことを覚えています。二度目は2007年6月に、ショパンの前奏曲を初めてレコーディングする頃でした。このリサイタルでは、前奏曲の作品28を全曲演奏しました。そして、2013年2月に再び皆さんの元へ戻れることを、嬉しく思います。

この5年間、繰り返し弾く中で心に生きるショパンと会話を重ねてきた彼の演奏は、どのような色香を増したのだろうか。

こうして考えを巡らせてみてなお、やはり一人として聴き逃すわけにはいかないと。思う。そのうえ、全員見事にタイプが異な

り、彼らを順に聴いてゆくことが新しい音楽との出会いとなりそうなのも嬉しい。若い才能を聴き、その変化をリアルタイムで追い続けることは、幸運にも同時代に生まれた人間の特権だ。将来彼らが巨匠と呼ばれるようになるその日まで、じっくりとその特権を堪能してゆきたい。

【4回セット券】
チケット(税込)：一般・メンバーズ 正面席セット13,500円/バルコニー席セット11,500円(学生5,000円)
【ピアノ・エトワール・シリーズ1回券】
チケット(税込)：一般 正面席3,500円/バルコニー席2,500円(学生1,000円) メンバーズ 正面席3,200円
発売日：Vol.18/好評発売中 Vol.19/一般 5月26日(土) メンバーズ 5月19日(土) Vol.20/一般 6月23日(土) メンバーズ 6月16日(土)
【ピアノ・エトワール・シリーズ アンコール！ Vol.1 1回券】
チケット(税込)：一般 正面席5,000円/バルコニー席4,000円(学生2,000円) メンバーズ 正面席4,500円
発売日：一般 9月29日(土) メンバーズ 9月22日(土・祝)

Review 2011.12-2012.2の彩の国のアーツ



Photo: 加藤英弘

音楽ホールと相性ぴったりのBCJ公演。今回はクリスマスの定番曲(メサイア)。当日は合唱メンバーの中嶋克彦がテノールの代役に急遽抜擢され、見事にソリストを務めるという場面も。小編成ならではの濃密なアンサンブルが、まるで輝く音で会場を包み込んでいくような、クリスマスにふさわしい演奏会となりました。

■ MUSIC 12月23日
『バッハ・コレギウム・ジャパン ヘンデル《メサイア》』



Photo: 加藤英弘

新春の四季彩亭は、笑点でもおなじみの三遊亭小遊三をゲストに迎え、大名跡「11代目桂文治」の襲名が決まった桂平治、三遊亭遊馬ら実力派が登場。平治師匠は得意ネタの「源平盛衰記」で笑いを誘い、小遊三師匠は「羽団扇」を軽快なテンポで披露、会場は大きな笑いに包まれました。

■ PLAY 1月27日
彩の国さいたま寄席 四季彩亭 ～新春落語特選会



Photo: 加藤英弘

ビリオド楽器(作曲当時のスタイルの楽器)の世界的名手による無伴奏ヴァイオリン全曲演奏。繊細なバロック・ヴァイオリンの音色、立体的に響く多層的なバッハの音楽がホール一杯に広がり、最後の1音の余韻まで味わい尽くすかのように聴き入るお客様との一体感がさらに充実した時間を作り出していました。

■ MUSIC 1月28日、29日
シリーズ「バッハとの対話」 Vol.3&Vol.4 寺神戸 亮 無伴奏ヴァイオリンのためのソナタとバルティータ全曲演奏会



Photo: 宮川舞子

■ PLAY 2月20日～3月1日
さいたまネクスト・シアター第3回公演
『2012年・蒼白の少年少女たちによる「ハムレット」』

蜷川幸雄7度目の『ハムレット』。アクリルの床面で2層に分けられた舞台上、無名の若手俳優たちが等身大で演じる『ハムレット』は、父親不在の時代に生きる現在の若者の姿を浮かび上がらせ、「生活者」であり「芸能の歴史を体現する」存在のこまどり姉妹が、芝居の途中で「幸せになりたい」を歌いながら登場するや、舞台は一転、『ハムレット』の劇世界を越え、現在を生きる我々へあらゆる問いを投げかける。自分の創る芝居をこまどり姉妹という存在で照射したいという、蜷川が演出家デビューの頃から持ち続けていた想いがついに実現。そして、圧倒的な存在感のこまどり姉妹と、それに負けないほどの熱演をみせたネクストの俳優たちに大きな拍手が贈られました。



Photo: 加藤英弘

新年の幕開けを華やかに彩る恒例のコンサート。今年は広上淳一の指揮で、前半はソプラノの市原愛が、オペレッタやワルツの名歌を透明感のある歌声で披露。後半はオーケストラの人気曲をたっぷり。最後は『ボレロ』の力強い演奏で会場は熱気に包まれ、明るく活力にみちた演奏会となりました。

■ MUSIC 1月7日
埼玉会館ニューイヤー・コンサート
新日本フィルハーモニー交響楽団



Photo:HARU

新年早々、「怒れる男」たちが大ホールに登場。ダンス経験値の高い新メンバーが加わったコンドルズは加速度的に進化を遂げ、ユニークな発想から繰り広げられるダンスは一層充実。おなじみのコントや人形劇、楽器演奏もパワーアップし、会場は熱気で充満。コンドルズのロック魂あふれるステージとなりました。

■ DANCE 1月28日、29日
コンドルズ 埼玉公演2012 新作『十二年の怒れる男』



Photo: 加藤英弘

600年の伝統を誇る笑いの芸術「狂言」。人間国宝の野村万作とテレビや映画、現代劇でも活躍する野村萬斎が、6年ぶりに埼玉会館に登場し、「昆布売」と「仁王」の2曲を披露。開演前には、狂言をより楽しむための講座を開催し、その分かりやすい解説は大変好評をいただきました。

■ PLAY 1月28日
新春狂言 万作・萬斎の世界

EVENT CALENDAR

2012.3.15-5.31

3 March	
15	木 臨時休館日(熊谷会館)
16	金
17	土
18	日 MUSIC ピアノ・エトワール・シリーズ Vol.17 金子三勇士 開演 15:00 ※詳細は P.22 にて
19	月 臨時休館日(彩の国さいたま芸術劇場)
20	火・水
21	木
22	金 MUSIC 埼玉会館ランチタイム・コンサート 第17回 通崎睦美の世界 ~よみがえる平岡養一の木琴~ 開演 12:10 ※詳細は P.22 にて PLAY 『ピーター・ブルックの魔笛』 開演 19:30
23	土 PLAY 『ピーター・ブルックの魔笛』 開演 19:30
24	日 MUSIC 光の庭プロムナード・コンサート 第50回記念スペシャル ~オルガンと弦楽器のハーモニー~ 開演 14:00 会場=彩の国さいたま芸術劇場 情報プラザ 出演=大塚直哉(オルガン)、大西律子・廣海史帆(バロック・ヴァイオリン)、堀内由紀(ヴィオラ)、夏秋裕一(チェロ)、栗田涼子(ヴィオラ・ネ) 曲目=ヘンデル: オルガン協奏曲第6番 変ロ長調 HWV 294 ほか PLAY 『ピーター・ブルックの魔笛』 開演 15:00 / 19:00
25	月 PLAY 『ピーター・ブルックの魔笛』 開演 15:00
26	火
27	水
28	木
29	金
30	土
31	日
4 April	
1	日
2	月 PLAY 彩の国シェイクスピア・シリーズ第25弾 『シンペリン』 開演 18:30 ※詳細は P.6~8 にて
3	火 PLAY 彩の国シェイクスピア・シリーズ第25弾 『シンペリン』 開演 18:30
4	水
5	木 PLAY 彩の国シェイクスピア・シリーズ第25弾 『シンペリン』 開演 13:00 / 18:30
6	金 PLAY 彩の国シェイクスピア・シリーズ第25弾 『シンペリン』 開演 13:00
7	土 PLAY 彩の国シェイクスピア・シリーズ第25弾 『シンペリン』 開演 13:00 / 18:30
8	日 PLAY 彩の国シェイクスピア・シリーズ第25弾 『シンペリン』 開演 13:00
9	月 PLAY 彩の国シェイクスピア・シリーズ第25弾 『シンペリン』 開演 13:00
10	火 PLAY 彩の国シェイクスピア・シリーズ第25弾 『シンペリン』 開演 13:00
11	水
12	木 PLAY 彩の国シェイクスピア・シリーズ第25弾 『シンペリン』 開演 13:00 / 18:30
13	金 CINEMA 彩の国シネマスタジオ 『此の岸のこと』 『木漏れ日の家で』 上映時間 10:30 / 14:30 / 18:30 ※14:30 上映終了後、『此の岸のこと』監督・外山治氏によるアフタートークがあります。 ※詳細は P.22 にて PLAY 彩の国シェイクスピア・シリーズ第25弾 『シンペリン』 開演 13:00
14	土 CINEMA 彩の国シネマスタジオ 『此の岸のこと』 『木漏れ日の家で』 上映時間 9:50 / 12:50 / 15:50 / 18:50 PLAY 彩の国シェイクスピア・シリーズ第25弾 『シンペリン』 開演 13:00 / 18:30 PLAY 彩の国さいたま寄席 四季彩亭~立川志らくの会 開演 17:00 ※詳細は P.22 にて DANCE Noism1 ダンサーによる 中高生のためのからだワークショップ 時間 14:00 ~ 15:30 ※応募等の詳細は P.23 にて
15	日 CINEMA 彩の国シネマスタジオ 『此の岸のこと』 『木漏れ日の家で』 上映時間 10:30 / 13:45 / 17:00 PLAY 彩の国シェイクスピア・シリーズ第25弾 『シンペリン』 開演 13:00
16	月 PLAY 彩の国シェイクスピア・シリーズ第25弾 『シンペリン』 開演 13:00 臨時休館日(熊谷会館)
17	火 PLAY 彩の国シェイクスピア・シリーズ第25弾 『シンペリン』 開演 13:00

18	水 臨時休館日(彩の国さいたま芸術劇場)
19	木 PLAY 彩の国シェイクスピア・シリーズ第25弾 『シンペリン』 開演 13:00 / 18:30 ※映像収録のため場内にカメラを設置いたします
20	金 PLAY 彩の国シェイクスピア・シリーズ第25弾 『シンペリン』 開演 13:00
21	土 PLAY 彩の国シェイクスピア・シリーズ第25弾 『シンペリン』 開演 13:00 MUSIC レ・ヴァン・フランセ 開演 15:00 ※詳細は P.14~15 にて
22	日
23	月
24	火 MUSIC 諏訪内晶子 ヴァイオリン・リサイタル 開演 19:00 ※詳細は P.22 にて
25	水 臨時休館日(彩の国さいたま芸術劇場・埼玉会館)
26	木
27	金
28	土 MUSIC 光の庭プロムナード・コンサート ~オルガンでスイング!?!~ 開演 14:00 会場=彩の国さいたま芸術劇場 情報プラザ 出演=浅井寛子(オルガン)、岡田愛詩(ジャズサクソ) 曲目=ヘフティ: キュート ほか
29	日
30	月・火
5 May	
1	火
2	水
3	木・金 PLAY 『海辺のカフカ』 開演 18:30 ※詳細は P.6~8 にて
4	土・日 PLAY 『海辺のカフカ』 開演 18:30
5	月・火 PLAY 『海辺のカフカ』 開演 13:00 / 18:00 臨時休館日(熊谷会館)
6	水 PLAY 『海辺のカフカ』 開演 13:00
7	木 臨時休館日(彩の国さいたま芸術劇場)
8	金 MUSIC 埼玉会館ランチタイム・コンサート 第18回 NHK 交響楽団メンバーによるアンサンブル 開演 12:10 ※詳細は P.22 にて PLAY 『海辺のカフカ』 開演 13:30
9	土 PLAY 『海辺のカフカ』 開演 13:30 / 18:30
10	日 PLAY 『海辺のカフカ』 開演 13:30
11	月 CINEMA 彩の国シネマスタジオ 『一枚のハガキ』 上映時間 11:00 / 13:40 / 16:20 / 19:00 ※11:00 上映回は音声ガイドがつきます。イヤホン付 FM ラジオ受信機を使用しますので、お聴きになる方はご持参ください。 ※詳細は P.22 にて PLAY 『海辺のカフカ』 開演 13:30
12	火 CINEMA 彩の国シネマスタジオ 『一枚のハガキ』 上映時間 10:00 / 12:50 / 15:40 / 18:30 PLAY 『海辺のカフカ』 開演 13:00 / 18:00
13	水 CINEMA 彩の国シネマスタジオ 『一枚のハガキ』 上映時間 10:30 / 13:30 / 16:30 PLAY 『海辺のカフカ』 開演 13:00
14	木 臨時休館日(彩の国さいたま芸術劇場)
15	金 PLAY 『海辺のカフカ』 開演 18:30
16	土 PLAY 『海辺のカフカ』 開演 13:30 / 18:30 臨時休館日(埼玉会館)
17	日 PLAY 『海辺のカフカ』 開演 13:30
18	月 PLAY 『海辺のカフカ』 開演 13:30
19	火 PLAY 『海辺のカフカ』 開演 13:00 / 18:00
20	水 PLAY 『海辺のカフカ』 開演 13:00
21	木 臨時休館日(彩の国さいたま芸術劇場・熊谷会館)
22	金 臨時休館日(熊谷会館)
23	土
24	日
25	月
26	火 MUSIC 光の庭プロムナード・コンサート ノスタルジア~夢の続き~ 開演 14:00 会場=彩の国さいたま芸術劇場 情報プラザ 出演=柳澤文子(オルガン)、錦田知子(ヴィオラ) 曲目=デンバー&ナイバート: カントリーロード ほか
27	水
28	木
29	金
30	土
31	日

3才以上のお子さんから楽しんでいただける公演です。光の庭プロムナード・コンサートには年齢制限はありません。

前売りチケット発売情報(~2012.5.15)

DANCE システム カスタフィオーレ

『Stand Alone Zone ~スタンド・アローン・ゾーン』

チケット発売日
一般: 3月31日(土) メンバーズ: 3月24日(土) 詳細は P.10~11 にて

DANCE りゅーとびあレジデンシャル・ダンス・カンパニー

Noism1 新作公演 見世物小屋シリーズ第3弾 ※見世物小屋シリーズ3部作完結編

『Nameless Voice ~水の庭、砂の家』

チケット発売日
一般: 3月31日(土) メンバーズ: 3月24日(土) 詳細は P.10~11 にて

MUSIC 熊谷会館ファミリー・クラシック

夏休みオーケストラ!

毎年好評の家族で楽しめる参加型オーケストラ公演。今年は熊谷会館で!

チケット発売日
一般: 4月7日(土) メンバーズ: 4月1日(日)

日時=7月29日(日) 開演 15:00* 会場=熊谷会館
出演=飯森範親(指揮)、朝岡 聡(ナビゲーター)、服部百音(ヴァイオリン)、東京交響楽団(管弦楽)
曲目=バーンスタイン: キャンディード序曲 久石 譲: さんぽ サン=サーンス: 死の舞踏 ほか
チケット(税込)=一般: 大人S席3,500円/A席3,000円 子ども(3歳~中学生)S席1,500円/A席1,000円
メンバーズ: 大人S席3,200円/A席2,700円
※3歳未満のお子様の入場はご遠慮ください。
★前号に掲載された開演時間及び終演時間に誤りがありました。お詫びして訂正いたします。



photo:加藤英弘

PLAY 彩の国さいたま寄席 四季彩亭 ~三遊亭円楽

初夏の四季彩亭は、ご存じ三遊亭円楽と一門の愛楽、全楽など若手精鋭たちの競演会。どうぞお楽しみに。

チケット発売日
一般: 4月14日(土) メンバーズ: 4月7日(土)

日時=6月29日(金) 開演 19:00 会場=彩の国さいたま芸術劇場 小ホール
出演=三遊亭円楽、三遊亭愛楽、三遊亭全楽、三遊亭きつづき、三遊亭楽大
チケット(税込)=一般3,000円 メンバーズ2,700円 ゆうゆう割引(65歳以上・障がい者)2,000円



PLAY しみじみ日本・乃木大将

チケット発売日
一般: 5月12日(土) メンバーズ: 4月28日(土)

※メンバーズの方には、別途ご案内するプレオーダーがあります。 詳細は P.6~8 にて

【チケットの購入方法について】

インターネット

トップページの「チケット購入」からお進みください。
【PC・スマートフォン】 <http://www.saf.or.jp/>
【携帯】 <http://www.saf.or.jp/mobile/>

チケットセンター

0570-064-939

10:00~19:00 (彩の国さいたま芸術劇場休館日を除く)
※一部携帯電話、PHS、IP電話からは受付できません。

「SAF オンラインチケット」で、発売初日10:00から公演前日23:59まで受付いたします。

クレジットカード決済→コンビニ発券
※チケット代のほかに、[チケット一枚につき] システム利用料135円、店頭発券手数料105円が必要です。

コンビニ支払い→コンビニ発券
※チケット代のほかに、[お支払い1件につき] 振込手数料210円(代金合計3万円以上は410円)、[チケット1枚につき] システム利用料135円、店頭発券手数料105円が必要です。

クレジットカード決済→宅配便で配送
※チケット代のほかに、[配送1件につき] 配送料300円が必要です。

コンビニ支払い→コンビニ発券
※チケット代のほかに、[お支払い1件につき] 振込手数料210円(代金合計3万円以上は410円)、[チケット1枚につき] システム利用料135円、店頭発券手数料105円が必要です。

現金もしくはクレジットカード決済、
その場でチケットをお渡しします。
手数料はかかりません。

財団メンバーズのお客様は、いずれの場合も便利な「口座引落」でのお支払い、チケットは無料配送いたします。

MUSIC 彩の国さいたま芸術劇場ファミリー・コンサート

宮川彬良&アンサンブル・ベガ

①音楽を楽しく聴ける3歳以上のお子様とご家族のためのコンサート
②たっぷり聴きたい方のためのコンサート(小学生以上対象)

チケット発売日
一般: 4月21日(土) メンバーズ: 4月14日(土)

日時=8月11日(土) ①開演 11:30 (休憩なし / 12:40 終演予定)
②開演 16:00 (休憩あり / 18:00 終演予定)

会場=彩の国さいたま芸術劇場 音楽ホール
曲目=①F.デレー・宮川彬良: すみれの花咲く部屋 ほか
②宮川彬良: バレエ組曲~ジャン・コクトー「随天使の恋」より~ ほか

チケット(税込)=①一般: 大人3,000円 子ども(3歳~中学生)1,500円 メンバーズ: 大人2,700円
②一般: 大人4,000円 子ども(小・中学生)2,000円 メンバーズ: 大人3,600円



MUSIC 埼玉会館ランチタイム・コンサート 第19回

大島文子&直子デュオ ~姉妹で紡ぐクラリネットとピアノの響き~

お昼のひとつき、気軽に楽しむクラシック。姉妹ならではの息の合ったアンサンブルをお楽しみ下さい。

チケット発売日
一般: 4月29日(日) メンバーズ: 4月28日(土)

日時=8月28日(火) 開演 12:10 会場=埼玉会館 大ホール
曲目=プーランク: クラリネット・ソナタ 山田耕作: 赤とんぼ ほか
チケット(税込)=全席指定1,000円



photo:Kevin Hatt

PLAY 松竹大歌舞伎

熊谷の夏の風物詩、「松竹大歌舞伎」。今年は、尾上菊五郎、中村時蔵らがおくる三大名作の一つ「義経千本桜」!どうぞお楽しみに。

チケット発売日
一般: 5月13日(日) メンバーズ: 5月9日(水)

日時=7月8日(日) 昼の部 12:00 夜の部 17:00 会場=熊谷会館
出演=尾上菊五郎、中村時蔵、尾上松緑、尾上菊之助
演目=義経千本桜 三幕「鳥居前」「道行初音旅」「川連法眼鏡」
チケット(税込)=一般: 特等席6,000円/一等席4,500円/二等席2,000円/おためし席1,000円
メンバーズ: 特等席5,400円/一等席4,100円
※当日は熊谷駅から熊谷会館間の臨時バスを運行します。



©松竹

PLAY 彩の国シェイクスピア・シリーズ第26弾

『トロイラスとクレシダ』

チケット発売日
一般: 5月19日(土) メンバーズ: 5月12日(土)

※メンバーズの方には、別途ご案内するプレオーダーがあります。 詳細は P.9~10 にて

発売中公演情報

MUSIC ピアノ・エトワール・シリーズ Vol.17 金子三勇士

日時=3月18日(日) 開演15:00 会場=彩の国さいたま芸術劇場 音楽ホール
 曲目=リスト:ハンガリー狂詩曲第12番、スベイン狂詩曲
 バルトーク:ルーマニア民俗舞曲、ピアノ・ソナタ ほか
 チケット(税込)=一般:正面席3,500円 メンバース:正面席3,200円
 ※バルコニー席・学生席 予定枚数終了

MUSIC 埼玉会館ランチタイム・コンサート

第17回 通崎睦美の世界 ~よみがえる平岡養一の木琴~

日時=3月22日(木) 開演12:10 会場=埼玉会館 大ホール
 曲目=モーツァルト:(アイネ・クライネ・ナハトムジーク) 第1楽章 ほか
 チケット(税込)=全席指定1,000円

PLAY 彩の国シェイクスピア・シリーズ第25弾 『シンペリン』

※詳細はP.6~8にて

PLAY 彩の国さいたま寄席 四季彩亭

~立川志らくの会

日時=4月14日(土) 開演17:00 会場=彩の国さいたま芸術劇場 小ホール
 出演=立川志らく、立川こしら、立川志ら乃
 チケット(税込)=一般3,000円 メンバース2,700円 ゆうゆう割引(65歳以上、障がい者)2,000円

MUSIC レ・ヴァン・フランセ

※詳細はP.14~15にて

MUSIC 諏訪内晶子 ヴァイオリン・リサイタル

日時=4月24日(火) 開演19:00 会場=彩の国さいたま芸術劇場 音楽ホール
 出演=諏訪内晶子(ヴァイオリン)、イタマル・ゴラン(ピアノ)
 曲目=ファリャ:スペイン民謡組曲 エネスコ:ヴァイオリン・ソナタ第3番「ルーマニアの民俗様式」ほか
 チケット(税込)=一般:正面席7,500円/バルコニー席6,000円(学生2,500円) メンバース:正面席7,000円
 ※バルコニー席・学生席 予定枚数終了

PLAY 『海辺のカフカ』

※詳細はP.6~8にて

MUSIC 埼玉会館ランチタイム・コンサート

第18回 NHK 交響楽団メンバーによるアンサンブル

日時=5月8日(火) 開演12:10 会場=埼玉会館 大ホール
 出演=早川りさこ(ハープ)、神田寛明(フルート)、船木陽子(ヴァイオリン)、谷口真弓(ヴィオラ)、
 渡邊法子(チェロ)
 曲目=サン=サーンス:白鳥 モンティ:チャールダシュ シュミット:ロココ風組曲 ほか
 チケット(税込)=全席指定1,000円

MUSIC ピアノ・エトワール・シリーズ

Vol.18 エフゲニ・ボジャノフ

Vol.19 ヤン・リシエツキ

Vol.20 河村尚子

アンコール! Vol.1 ラファウ・ブレハッチ

※詳細はP.16~18にて

MUSIC NHK 交響楽団

井上道義(指揮) オリヴィエ・シャルリエ(ヴァイオリン)

日時=6月24日(日) 開演16:00 ※15:25~15:40 指揮者によるプレコンサート・トークあり
 会場=埼玉会館 大ホール
 曲目=
 ベートーヴェン:ヴァイオリン協奏曲 二長調 作品61、交響曲第6番 へ長調 作品68「田園」
 チケット(税込)=一般:S席6,500円/A席5,500円/B席4,500円(学生2,000円)
 メンバース:S席6,000円/A席5,000円/B席4,000円

公演詳細は、財団ホームページ

<http://www.saf.or.jp>にて

彩の国シネマスタジオ LINE UP 2012.4-6

4月13日(金)~15日(日) 会場:彩の国さいたま芸術劇場 映像ホール

『此の岸のこと』『木洩れ日の家』

老老介護の夫婦役を、さいたまゴールド・シアターの二人が演じ、モノコ国際映画祭短編部門最優秀作品賞など5冠を受賞した『此の岸のこと』。ワルシャワ郊外に暮らす91歳の女性の人生最後の日々を、世界現役最高齢の名女優が詩的に描き出す『木洩れ日の家』の2本立て。

4月13日(金) 10:30 / 14:30 / 18:30
 14日(土) 9:50 / 12:50 / 15:50 / 18:50
 15日(日) 10:30 / 13:45 / 17:00

※13日(金)14:30上映終了後、
 『此の岸のこと』監督・外山文治氏によるアフタートークがあります。

『此の岸のこと』(2010年/日本/30分)
 監督・脚本・製作=外山文治
 出演=遠山陽一、百元夏輪(さいたまゴールド・シアター)
 『木洩れ日の家』(2007年/ポーランド/104分)
 監督・脚本・編集=ドロタ・ケンジェジャフスカ
 出演=ダヌタ・シャワラルスカ ほか
 料金(2作品セット)=大人1,200円 小中高生800円



『此の岸のこと』©Liner Notes/2010



『木洩れ日の家』

5月11日(金)~13日(日) 会場:彩の国さいたま芸術劇場 映像ホール

『一枚のハガキ』

戦争ですべてを失った男と女。彼らを巡り合わせたのは、「一枚のハガキ」だった。生命力溢れる美しいラストシーンにこめられた「希望と再生」へのメッセージは観る者に大きな感動をもたらす。日本映画界の至宝、新藤兼人監督が99年の人生をかけた最後の最高傑作。

5月11日(金) 11:00 / 13:40 / 16:20 / 19:00
 12日(土) 10:00 / 12:50 / 15:40 / 18:30
 13日(日) 10:30 / 13:30 / 16:30

※上映前に新藤兼人監督からのビデオレターがあります。
 ※11日(金)11:00上映回は音声ガイドがつきます。
 イヤホン付FMラジオ受信機を使用しますので、お聴きになる方はご持参ください。
 監督・脚本・原作=新藤兼人 出演=豊川悦司、大竹しのぶ ほか(2011年/日本/114分)
 料金=大人1,000円 小中高生800円



©2011『一枚のハガキ』
 近代映画協会/渡辺画事/プランダス

6月8日(金)~10日(日) 会場:彩の国さいたま芸術劇場 映像ホール

A.『ピアノマニア』 B.『木を植えた男』『大なる河の流れ』『クラック!』『トゥ・リアン』

崇高なる芸術の誕生と、その瞬間のために我が身を捧げる“マニア”たちの途方もない格闘の軌跡。ピアニストを影で支える調律師の存在に光を当てた異色ドキュメンタリー『ピアノマニア』。世界のアニメーション作家に決定的な影響を与えた至宝フレデリック・バックの短編アニメーション映画4作品を一挙上映。

『ピアノマニア』(2009年/オーストリア・ドイツ/97分)
 監督=リリアン・フランク、ロベルト・シビス
 出演=ビエル=ロラン・エマール、
 シュテファン・クニツプファー ほか
 料金=大人1,000円 小中高生800円
 『木を植えた男』(1987年/30分) 『大なる河の流れ』(1993年/24分)
 『クラック!』(1981年/15分) 『トゥ・リアン』(1978年/11分)
 監督・脚本・原画=フレデリック・バック
 料金(4作品セット)=大人1,000円 小中高生800円



『ピアノマニア』
 ©OVAL Filmmacher / WILDART FILM



『木を植えた男』

THEATER BRIDGE

Information

オルガンをまるごと体験! ~みんなのオルガン講座2012~

普段あまり馴染みのないパイプオルガンという楽器。彩の国さいたま芸術劇場では、ポジティブ・オルガンを使って、皆様にパイプオルガンに親しんでいただける講座を2006年より開始しました。オルガンのしくみや歴史についてのお話を聞くレクチャー・コースや、レッスンを通して演奏を学ぶ基本コースがございます。ジワジワとパイプオルガンのファンを増やしているこの人気講座は、2012年度ももちろん開催!ふるってご応募ください!

■レクチャー

A: はじめて知るパイプオルガン(初心者向け)
 B: パイプオルガンの旅~17世紀スペイン編~
 (オルガンについてより詳しく知りたい方向け)



Photo:加藤英弘

【日時】 6月17日(日) (A)13:15~15:00 (B)10:00~11:30

【会場】 彩の国さいたま芸術劇場 大練習室

【対象・受講料】 (A)小学生以上 (B)高校生以上 各回500円

【応募方法】 往復ハガキの往復に、以下の事項をご記入の上、ご応募ください

①希望のレクチャー(AまたはB) ②郵便番号 ③住所 ④氏名(ふりがな) ⑤年齢
 ⑥電話番号 ⑦FAX番号 ⑧メールアドレス
 ⑨受講希望者がおさまの場合、付添受講希望者名
 【応募締切】5月11日(金)消印有効

【応募先】 〒338-8506 さいたま市中央区上峰3-15-1

彩の国さいたま芸術劇場 事業部「みんなのオルガン講座」係

※応募者多数の場合は抽選。結果は返信ハガキにてお知らせいたします。
 ※応募者1名につきハガキ1通でのお申し込みとなりますが、お子さまの付き添いとしてレクチャーにお越しになった方も、受講料が必要となります。親子で参加する場合は、応募ハガキにその旨を必ず明記してください。

■基本コース(ソロ・クラス)

【日時】

実技審査: 6月17日(日)

レッスン: 9月15日(土)、11月4日(日)、2013年2月3日(日)、3月16日(土)

発表会: 3月17日(日)

※基本コース応募者の方には、6月17日に実技審査を受けていただき、合格者が9月15日~3月16日のレッスンと3月17日の発表会に参加となります。

【会場】 彩の国さいたま芸術劇場内練習室など(発表会は劇場内情報プラザにて開催)

【費用】 実技審査参加費:500円 実技審査合格者/受講料:8,500円(テキスト代別)

【応募締切】4月24日(火)消印有効

【講座内容、応募方法の詳細】(公財)埼玉県芸術文化振興財団 事業部 音楽担当
 048-858-5506までお問合わせいただくか、財団ホームページ<http://www.saf.or.jp>をご覧ください。

ACCESS MAP アクセスマップ

彩の国さいたま芸術劇場



〒338-8506 埼玉県さいたま市中央区上峰3-15-1
 電話:048-858-5500(代) ファックス:048-858-5515
 電車でのアクセス JR 埼京線与野本町駅(西口)下車 徒歩7分
 バスでのアクセス JR 北浦和駅から西武バス大久保行き
 「彩の国さいたま芸術劇場入口」下車 徒歩2分

埼玉会館



〒330-8518 埼玉県さいたま市浦和区高砂3-1-4
 電話:048-829-2471(代) ファックス:048-829-2477
 電車でのアクセス JR 京浜東北線浦和駅(西口)下車 徒歩6分

熊谷会館



〒360-0031 埼玉県熊谷市末広3-9-2
 電話:048-523-2535(代) ファックス:048-523-2536
 電車でのアクセス JR 高崎線熊谷駅(北口)下車 徒歩15分

※駐車台数に限りがありますので、ご来場の際はなるべく公共交通機関をご利用ください。

■サポーター会員

(公財)埼玉県芸術文化振興財団は、演劇、ダンス、音楽を中心に、この劇場でしか見られない最高の作品を提供できるよう、蜷川幸雄芸術監督のもと、作品づくりに努めています。こうした財団の活動にご理解、ご支援をいただいているのが(公財)埼玉県芸術文化振興財団サポーター会員の皆様方です。

(株)与野フードセンター／(株)亀屋／武州ガス(株)／(株)松本商会／(有)香山壽夫建築研究所／埼玉新聞社／(株)テレビ埼玉ミュージック／埼玉りそな銀行
(株)パンフィックアートセンター／(株)アサヒコミュニケーションズ／FM NACK5／東京ガス(株)／カヤバ システム マシナリー(株)／(株)タムロン／(株)十万石ふくさや
森平舞台機構(株)／東芝エルティエンジニアリング(株)／埼玉トヨタ自動車(株)／(有)齋賀設計工務／ゲレッツ・ジャパン・スズゼン(株)／武蔵野銀行
浦和ロイヤルパインズホテル／(株)アルピーノ／国際照明(株)／(株)サイサン 会長 川本宜彦／三国コカ・コーラボトリング(株)／埼玉スバル自動車(株)
桶本興業(株)／(株)佐伯紙工所／(株)太陽商工／(株)しまむら／アイジャパン(株)／(有)六辻ゴルフセンター／不動開発(株)／ビストロ やま／埼玉縣信用金庫
(株)栗原運輸／彩の国SPグループ／(有)プラネッツ／関東自動車(株)／(株)クマクラ／(株)デサン／(株)中島運輸／セントラル自動車技研(株)／(株)アズマン
丸美屋食品工業(株)／ボラスグループ／ひがし歯科／埼玉トヨペット(株)／公認会計士 宮原敏夫事務所／(株)価値総合研究所／(株)埼玉交通
医療法人 顕正会 蓮田病院／(株)ウイズネット／サイデン化学(株)／アイル・コーポレーション(株)／五光印刷(株)／旭ビル管理(株)／ヤマハサウンドシステム(株)
(株)エヌテックサービス(株)／(株)クリーン工房／(株)つばめタクシー／(株)サンワックス／(株)綜合舞台／(株)タクトコーポレーション／広総業(株)／(財)さいたま住宅検査センター
(株)コマーム／(株)国大セミナー／(株)NEWSエンターテインメント／(株)オーガス／イープラス／六三四堂印刷(株)／医療法人 樺会 林整形外科／埼玉県整形外科医会
医療法人社団 山稔会 山崎整形外科

H24.2.15現在／一部未掲載

[問合せ先](公財)埼玉県芸術文化振興財団 営業宣伝課 サポーター会員担当 TEL 048-858-5507

King Lear



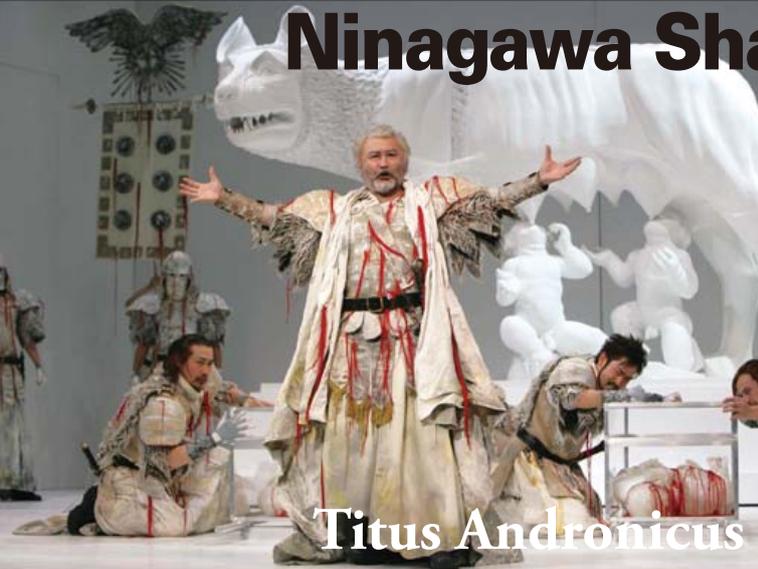
1999年 リア王 (RSC共同制作) パービカン・シアター、ロイヤル・シェイクスピア・シアター
Photo: 谷古宇正彦

2003年 ペリクリーズ ナショナル・シアター オリヴィエ Photo: 江川誠志



Pericles

Ninagawa Shakespeare in UK



2006年 タイタス・アンドロニカス ロイヤル・シェイクスピア・シアター、シアター・ロイヤル・プリマス
Photo: 高梨光司

Titus Andronicus

2007年 コリオリナス パービカン・シアター Photo: 清水博孝



Coriolanus

SAITAMA ARTS THEATER PRESS 2012.3-4

平成24年3月15日発行38号(隔月15日発行) 第38号(3月-4月) 発行人:竹内文則 発行:公益財団法人埼玉県芸術文化振興財団 〒338-8506 さいたま市中央区上峰3-15-1 TEL.048-858-5500